

C 広葉 葉や花は総て互生する

D 広葉 葉表は生時に特に皺状ではない

E葉裏は多毛

〔シバヤナギ節シバヤナギ亜節1〕

F葉裏はやや多毛、後中脈微毛散在;葉表は多毛から、後無毛 新枝は長毛やや密生、後ほぼ無毛  
(SGOHY、群馬山梨長野、山地、乾地崖岩)(小低木;葉334広)【22コマイワヤナギ】

新葉は脱落する毛に被われる

葉表は多毛 ほぼ無毛、中脈密毛 ほぼ無毛

葉裏は毛やや多 毛散在( 無毛)、中脈密毛 微毛散在 枝下部の葉は裏密毛

鋭鋸齒;革質;凹脈裏凸

葉表は濃緑、艶;裏灰緑、白味あり

葉表は生時中脈凹、側脈やや凹(押葉で中脈・側脈は平坦-やや凹)、皺感無し

;裏は中脈・側脈・細脈みな凸;やや肋脈(注)

成葉は披針状楕円-長楕円形、25-100mm、巾20-30mm

葉柄は上面赤味あり、微毛多 微毛残る 葉柄6-9mm

托葉は鈍頭、偏楕円形、鋸齒縁、有毛;基部に腺なし-少数密集 托葉なしか、稀に発達

新葉赤味あり、縁は裏に巻かず

新枝は長毛やや密生 ほぼ無毛、芽赤く密毛 頂部多毛 残 前年枝無毛か毛残、葉痕顯著 Y隆起条あり

丈50cm位までが普通(1m以上もある)

(M28;側脈は葉下面に隆起するのがコマイワヤナギ、隆起しないのがシバヤナギ)(G;苞の大きさは変異があるが小さい)

変品種;【22ケコマイワヤナギf;(GOH)子房に絹毛】

F若葉裏は絹毛密生;若葉表は無毛 若枝は無毛 埼玉群馬、石灰岩地に産す

(SG、埼玉武甲山、群馬赤城山?、石灰岩)(低木;葉2広)【チチブヤナギ】

若葉の表中肋に微毛、他は無毛;裏絹毛密 葉裏は中脈沿に絹毛あるか、時に無毛

葉表は濃緑;裏灰白

微凹鈍鋸齒

成葉は卵形-狭卵形;円-微心脚、35-65mm;革質

葉柄5-11mm

若枝は無毛

(Gはカワヤナギ節とするが、カワヤナギ節は細葉である。本種は広葉のグループであり、Sはシバヤナギ節とし、M03には「小泉はシバヤナギ節に位置づけている」としてこれを支持している。ここではシバヤナギ節とする。尚、S検索表ではシライヤナギと共に苞上半暗色の部においているが、シライヤナギも本種も苞に黒味がないと考えられる;山口)